

「小笠原諸島生態系回復ボランティア2012 in 母島」を実施して

東京事務所

小笠原諸島は日本列島から約千キロ南の太平洋上に存在する30余りの島々で、そこには独自の進化を遂げた小笠原固有の希少な動植物が生育しています。これらの貴重な生態系を保全するために、関東森林管理局においては平成19年4月、小笠原諸島森林生態系保護地域を設定し、その保全管理に努めています。

昨年6月、大陸とは異なる独自の生態系が評価され、小笠原諸島は我が国で4番目の世界自然遺産に登録されましたが、登録時の要請事項の一つとして、「侵略的外来種対策を継続すること」が求められています。関東森林管理局では、昨年度、外来種対策の中期計画を策定し、現在、それに基づいて着実に外来種対策に取り組んでいます。

東京事務所では、これら計画的な外来種の駆除の一環として、今年度も小笠原母島観光協会等との共催により、内地と小笠原でボランティアを募集して、「小笠原諸島生態系回復ボランティア2012 in 母島」を実施しました。

11月6日、都内や関東地方から参加いただいた24名のボランティアの皆さんが、東京の竹芝桟橋を出発し、約29時間の船旅を経て、7日午後、母島観光協会や宿泊所の盛大な歓迎の中、母島に到着しました。皆さん船旅の疲れもなく、宿泊場所の近くの海岸や遊歩道を散策しました。

11月8日、島のほぼ中央部に位置する桑の木山国有林には、内地24名、



生態系回復作業



アカギ稚幼樹抜き取り



小径木伐倒

この桑ノ木山の作業地の外来種対策は、従前からボランティアの方々の協力を得て取り組んでおり、今回は、アカギ小径木（一部中径木）の伐倒、稚幼樹の抜き取りなどを行いました。ボランティアの皆さんには、汗びっしょりになりながら、予定した原生植生の回復に精力的に取り組んでいただき、全員怪我もなく無事終了することができました。

島民5名のボランティアの皆さんと島民のサポートスタッフが、保全センター職員等40名が集まりました。過去には、小笠原まで行きながら台風で作業ができなかった時もありましたが、今回は、天候にも恵まれ、実質的に10回目の開催となりました。



アカギの説明

その夜の交流会は、バナナの葉にスターフルーツがきれいに並べられ、小笠原ならではの雰囲気の中、母島観光協会差し入れの島レモンやぶんたんの焼酎割りなども振舞われ、盛り上がったところで参加者全員により自己紹介などで、さらに盛り上がり親睦を深めることができました。

11月9日、快晴。ポランティアの皆さんは、オプショナルツアーとして、乳房山トレッキング登山やアカギを材料にした箸作り、また、島内の観光に赴いた方も。乳房山では天然記念物のアカガシラカラスバトも見たり、夕日の絶景ポイント、新夕陽が丘では、グリーンフラッシュは見ることでできませんでしたが、母島の海に沈むきれいな夕陽を見ることができ、母島の自然を満喫したよ



萌芽力の強いアカギ

うです。

11月10日、全員、「ははじめ丸」の出航する船客待合所前で記念撮影をしたり土産物を買った後、お世話になった方々の盛大な見送りを受けて母島を後にしました。父島では島寿司も味わった後、「おがさわら丸」に乗り換え。カツオドリの飛行の妙技や太平洋の夕陽も楽しみつつ、船室の談話も一層弾んで船酔いもどこへやら。そして、11日、無事竹芝橋に帰ってきました。

今年のポランティア参加者は、募集がテレビ放映されたことなどもあり、8月上旬には早くも定員を超え、定員の4倍近くの申込がありました。参加者からは次回は先着順ではなく抽選がよいのではないかとの声もありました。また、アカギの駆除だけ



交流会



夕陽

ではなく、固有種等の植樹もしたいとの要望もあり、今後、検討していきたいと考えています。

これからも、ポランティアの皆さんの小笠原諸島に対する熱い思いを大切にしながら、母島の皆さんとも一緒に、世界自然遺産として登録されている小笠原諸島森林生態系保護地域を後世に伝えていきたいと考えています。

ツアーに参加していただいた皆さん並びにお世話になりました母島の皆さんに、この紙面をお借りしてあらためてお礼申し上げます。



局庁舎耐震改修工事中

局庁舎の耐震改修工事は、平成24年2月から平成26年6月までを工事期間として実施しています。

工事開始から1年が経過した現在、概ね6割が終了した状況となっております。

庁舎内外の工事に伴い来庁の皆さんには、大変ご不便をおかけしておりますが引き続きご理解ご協力をお願いいたします。

局庁舎
耐震改修工事について